

## 平成21年度活水中学・高等学校自己評価結果について

2010.2.22

平成22年2月に実施しました「平成21年度活水中学・高等学校自己評価結果」についてお知らせします。

日頃の教育実践について、教師がどう考えているかが分析できます。自己評価はあくまでも教師自身による評価です。

「学校評価」と同じように、3.0を基準にし、4.0以上を、3.9～3.5を、3.0未満をとして表しました。

その結果、評価が低いと考えられる3.0未満のはありませんでした。

今回の結果と、11月に行われた保護者・生徒による「学校評価」を参考にしながら、評価が高いものについては、慢心することなく、さらに、保護者や生徒の皆さんに理解していただくよう努力をしていきたいと思えます。

また、自己評価がやや低かったものについては、来年度、その改善に努めます。特に、下記の3項目については対策を考えていきます。

学校経営方針の明確化とその実践

進路指導におけるキャリア教育

校内研修体制の確立と実践

昨年の評価では、計画的・組織的に授業研究等を行う＜指導実践力の向上を図るため、研究授業及びその検討会（授業研究）等の機会を各教科とも年1回以上行う。＞について、3.0未満のと低い評価が出ましたが、今年度は、教科の枠を超えて「授業研究」を実施し、教師の資質向上に努めました。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	問題番号	5段階	総括
<b>1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価</b>						
(1) -1	学校教育目標	建学の精神である <活水> = キリストから永遠の命を受け継ぐ = に基づく人間教育	* 教育方針6項目を推進するため、宗教的情操教育を柱とした学校生活の実践 * 礼拝・授業・特別活動等を通して、自己の個性・能力を伸ばし、他者の心を理解し共感できる人格教育を行う。	キリスト教の精神を学ぶことによって、建学の精神を理解する。	1	4.0
				学力の向上に努め、真理を探究する精神と将来への希望を確立する。	2	3.7
				ボランティア活動を通して、自尊感情とコミュニケーション能力を高める。	3	3.7
				欠席・遅刻のない規律ある生活に努め、心身の健康と自律心を養う。	4	3.9
				差別・偏見のない社会の実現に貢献できる人権感覚を養う。	5	4.0
				平和学習を通して、被爆地長崎に生き・学ぶ者として、世界に平和のメッセージを発信する。	6	4.3
(1) -2	学校教育目標	建学の精神である <活水> = キリストから永遠の命を受け継ぐ = に基づく人間教育	* <活水> に象徴されるキリスト教精神を礼拝・授業・キリスト教行事を通して総合的に学び、現代社会にいかにかに生きるべきかを探求する心を育成する。	毎日の朝の礼拝・終礼を通し、祈りに始まり祈りで終わる深い宗教的情操を育成し、聖書に基づくメッセージから、いかに生きるかを受け取る。	7	4.0
				花の日・修養会・クリスマス等の行事を通して、愛と奉仕の精神を体験的に身につける。	8	4.0
				聖書の授業等を通し、聖書に表された愛の精神を学び、現代社会に生きる指針を学ぶ。	9	3.6
(2)	学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	* 経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	活水の教育ミッションと経営ビジョンを全教職員に提示・共有し、教育実践に努める。	10	3.4
				活水の教育ミッション・ビジョンを土台とした育てたい生徒像を、生徒・保護者・地域社会等に対して明確に提示する。	11	3.2
(3)	学年経営	学年目標の具現化	* 本年度の基本方針に沿った学年目標による経営を行う。	学年の教育目標を教職員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	12	3.3
				毎日の学年指導の連絡を密に行い、月に1回以上の学年会を開き、目標の達成状況、指導上の課題等について教職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	13	4.1
(4)	学級経営	学級目標の具現化	* 学校目標及び学年目標に沿った温かい学級づくりを行う。	学校目標・学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	14	3.7
				生徒との個別面談を学期に1回以上実施し、学級生徒の多面的理解を深める。	15	3.9
				生徒が主体的・意欲的に活動できる学級経営に努める。	16	3.8
<b>2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価</b>						
(1)	教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の実施	* 学習指導要領の主旨が生かされた特色ある教育課程を編成する。	各学科・コースの特性や個々の生徒の進路に適した教育課程を編成する。	17	3.9
				教育課程の実効性や、教育目標の達成状況を定期的に検証する。	18	3.4
(2)	教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	* 創意工夫がなされた学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画(シラバス)を作成し、学習目的や学習方法を事前に生徒に説明する。	19	4.0

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	問題番号	5段階	総括	
			基礎学力・基礎技術の習得の徹底を図る。	20	3.9		
			教科の専門性や指導力の向上に努め、効果的な授業を行うための研究や研修を深める。	21	3.7		
			わかりやすい授業づくり・授業改善を推進するため、生徒による授業評価を定期的実施する。	22	3.9		
		適切な学習評価	* 教職員の共通理解のもとに適切な評価を行う。	評価基準に基づき、共通理解のもとで評価を行う。	23	4.0	
				評価をその後の授業にフィードバックし、指導と評価の一体化を図る。	24	3.8	
(3)	総合的な学習の時間	ねらいが明確で創意工夫を生かした活動	* 学習指導要領のねらいをふまえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う。	教育目標を具体的な活動を通して、愛と奉仕の精神・平和を作り出す精神を身につけるために、年間計画に基づいた学習活動を展開する。	25	3.8	
(4)	特別活動	ホームルーム活動の充実	* 学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。	26	3.5	
		生徒会活動の充実	* 生徒の自発的・自主的な活動を推進する。	生徒の自発性・自主性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる。	27	3.3	
		学校行事の充実	* 生徒の実態に即した効果的な行事を行い活動内容を工夫する。	効果的な学校行事となるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する。	28	3.5	
(5)	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	* 隣人愛に基づく社会性を身につけさせるよう、全教職員で指導を行う。	身だしなみと言葉を整えさせ、マナーアップ運動を推進する。	29	3.5	
				始業時間を守り、遅刻者を減らす。	30	4.1	
				自分自身の安全管理を自己点検させ、身を守る術を身につけさせる。	31	3.7	
	教育相談の充実	* 生徒の持つ悩みや困難の解決の援助をする。	教職員がカウンセリング・マインドをもって、生徒に対応することができるように、資料を提供したり、研修の機会を持つよう努める。	32	3.6		
			悩みや問題を抱える生徒・その保護者への対応の仕方を、専門家の助言を受けながら考える機会を定期的に持つように努める。	33	4.1		
			学校・専門機関・スクールカウンセラーが連携を取り、個々の生徒に応じた教育相談活動を努める。	34	4.3		
			生徒の保健室利用、欠席・欠課の状況を把握する。いじめ・悩みアンケートの実施を通して、不登校・いじめなどを早期に発見し、適切に対応するよう努める。	35	4.3		
(6)	進路指導	進路指導の充実	* 系統的・計画的な進路指導を行う。	生徒個々に自分の適性・能力に応じた的確な進路の目標を設定させるために具体的で効果的な進路情報の提供を図る。	36	3.9	
				目標とする進路の実現に必要な学力の向上・学習への意欲を促すために、進路講演会・三者面談等を計画的に行い、適切な方策を考え実行する。	37	3.8	
				進路実現に向け、課外授業を充実させ、模擬試験や検定試験等を実施する。	38	3.9	
				職業観・勤労意識を醸成するためにキャリア教育を推進する。	39	3.2	

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	問題番号	5段階	総括	
			* 英語科における進路指導の充実	国際社会に貢献するための英語力の充実を図り、オーラル・イングリッシュを通して、英語によるコミュニケーション能力を高める。	40	4.2	
				英語を中心にしながら、国社英の学力を大幅に向上させ、難関私大の志望者全員合格を目指す。	41	3.8	
				各種の英語検定を積極的に取り組ませ、総合的な英語力をのばす。	42	4.0	
			* 国公立進学コースの進路指導の充実	英・数を中心にしながら、5教科の学力をのばし、国公立大学の志望者全員合格を目指す。	43	3.4	
				早朝課外・土曜日の課外や長期休暇中の課外を通して学力をのばし、目標とする進路を確保する。	44	3.9	
				予備校の講師や卒業生を招いて講演会等を実施し、将来の進路に応じた進路指導を実施する。	45	3.5	
			* 音楽コースの進路指導の充実	音楽実技を中心に音楽力を鍛え、音楽大学および音楽を必要とする大学へ進学できるよう進路指導の充実を図る。	46	4.1	
			* 普通コースの進路指導の充実	多様化する進路に対応するため、将来の職業理解のためのガイダンスや各業種の企業で活躍する卒業生の講演会を実施する。	47	3.4	
				各種の進路に対応する課外授業・校外模試を充実させ、その受講率を上げる。	48	3.4	
			(7)	読書教育	読書活動の充実	* 読書活動を通して、豊かな人格と落ち着いた生活態度を養う。	図書館報等を発行して図書の情報を提供し、図書貸し出し・利用を促進する。
	図書委員会を組織・運営し生徒たちの図書活動の発展を図る。	50				4.0	
(8)	健康・安全教育	健康や安全に対する態度の育成	* 健康・安全な生活を送るための指導を行う。	生徒の心身の健康について、学級担任・養護教諭・保健主事の連携を密にした指導を行う。	51	4.1	
				安全確保について生徒や保護者への啓発を促し、組織的に対応できる危機管理体制を整える。	52	3.5	
(9)	人権・同和教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	* 同和問題・ジェンダーやDV等の性差別・障害者差別・民族差別等の差別の存在を認識し、解決のための実践力を身につけさせる。	毎朝の礼拝や聖書の授業を通して、キリスト教精神に基づく博愛・平等の精神を学ぶ。	53	3.9	
				人権・同和教育の時間を設定して、適切な視聴覚教材を用いて学習する。	54	3.9	
				日常の教育活動の過程に、互いに助け合い・協力しながら問題解決をしようとする態度を養う。	55	3.6	
(10)	部活動	部活動の活性化	* 部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足度を高め、学習との両立ができるよう支援を行う。	56	3.5	
				部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション力等のたくましい人間力を育む。	57	3.8	
(11)	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	* 活水の教育方針に基づくボランティア意識の高揚を図る。	花の日やクリスマス等の宗教行事における施設訪問への参加を奨励する。	58	3.7	

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	問題番号	5段階	総括	
			いしぶみもり活動等の身近な環境美化に取り組み、奉仕の心を養成する。	59	4.1		
			ボランティア情報を提供し、主体的な参加を奨励する。	60	3.5		
(12)	資格取得	各種資格取得の奨励	* 個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。 英語検定、漢字検定、ワープロ検定等に果敢に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	61	3.8		
<b>3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価</b>							
(1)	自己申告	自己申告制度の実施	* 自己申告制度により学校活性化を図る	自己申告シートへ目標等を記載することにより、目標を明確にして教育活動にあたる。	62	3.8	
				自ら設定した目標・具体的方策等を定期的に自己評価することにより、達成度を確認でき、自己啓発に繋げる。	63	3.9	
				「学校活性化への提言」を行うことにより、一人ひとりが「魅力ある学校づくり」の一翼を担う。	64	3.5	
				校長等との「面談」を活用し、自己目標を説明する機会が保障されるとともに、校長との相互理解を図ることができ、かつ教職員のモラルを向上する。	65	3.4	
(2)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	* 各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	66	3.8	
				週に1回の割で、運営委員会を実施し、校務全体の円滑な推進のため、各分掌間・学年間の相互連携を図る。	67	3.9	
				分掌ごとの業務記録、資料保存に努める。	68	3.9	
(3)	各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	* 目的に沿って適切に委員会を設置し、運営する。	各委員会の設置目的を確認し、その実現に向けて効果的な話し合いを行う。	69	3.4	
				各種委員会での話し合いの結果を教職員の各業務に反映させ、教育活動や学校経営等に生かす。	70	3.3	
(4)	校内研修	研修体制の確立と実践	* 計画的・組織的に授業研究等を行う。	生徒の実態や自校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年3回以上行う。	71	3.1	
				指導実践力の向上を図るため、研究授業及びその検討会（授業研究）等の機会を各教科とも年1回以上行う。	72	3.4	
				校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	73	3.5	
(5)	現職教育	教職員の資質向上への取り組み	* 各種の研修に積極的に参加する。	キリスト教同盟校・私学協会等で開催される研修会に計画的・積極的に参加し、教職員の資質の向上を図る。	74	3.6	
<b>4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価</b>							
(1)	学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	* 日々の清掃を充実させ、美化意識を高める。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	75	4.1	
				特別な清掃活動（大掃除・地域清掃活動等）を年3回以上実施する。	76	3.9	
				日常生活の中で環境美化の意識を高める指導に取り組む。	77	3.8	
				省エネ運動を推進し、水道使用量や電気使用量を前年比5%減に努める。	78	3.7	

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	問題番号	5段階	総括
(2)	施設・設備の管理	活用と安全管理	* 施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検や補修を月1回以上行い、環境整備を図る。	79	3.7
				日常の教育活動や指導は、常に安全を優先して行う。	80	4.2
(3)	情報インフラの設備・充実	教育活動全般の情報化	* パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り、効率的な事務作業を行う。	81	3.9
				パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。	82	3.9
				諸帳票類の管理保管体制を整え、適切に運用する。	83	3.8
<b>5 開かれた学校づくり</b>						
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	* 生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年2回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	84	3.6
				P T A 総会等を活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	85	3.7
		P T A 活動の充実	* 支援と活性化を積極的に図る。	自主的なP T A活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	86	3.4
				P T A関係の会議への参加率の向上に努める。	87	3.3
(2)	地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	* 他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	各教科や部活動等において、関連校との効果的な情報交換や連携に努める。	88	3.6
				関係の深い中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	89	3.6
				地域等からの苦情等に対し、適切に対応できる体制を整備するとともに、改善を速やかに行う。	90	3.8
		外部講師の活用	* 教育目標に沿って、外部講師招へいによる教育活動を行う。	年間計画に基づき、平和学習・進路講話等に外部講師を積極的に活用し、教育的効果を高める。	91	3.9
(3)	学校情報の公開	ホームページの更新	* ホームページを見やすくし、定期的更新を行う	ホームページの更新を定期的のみならず、臨機的行い、学校の現況に関する情報の積極的に発信する。	92	3.6
				ホームページの更新が、常に適切に行われるように、学校情報の集約が、効率的にできるよう体制を構築する。	93	3.5
	学校情報の広報	* 学校方針や具体的教育活動についての情報を保護者等へ積極的に提供する	学校方針や具体的な教育目標・教育活動の内容について、適切な情報を保護者や地域関係機関に提供するため、学校だよりを年4回以上発行する。	94	4.0	
			学校案内・パンフレット・ポスター配布や学校説明会・個別相談会など適切な広報活動を行い、小・中学生の進路選択に関する資料を提供する。	95	4.1	
			学校の具体的な教育目標や教育活動状況・進路状況等を適性に説明するために、小・中学校訪問を適宜に行う。	96	4.2	
			学校の特色・校風を実感し理解する機会としてのオープンスクールを年2回開催し、入学希望者の増加に努力する。	97	4.3	